

宗教が政治権力と結びつくと、必ずその宗教は腐敗します。本来の教えとは関係のない経済的な利益を求め、対立する者を神の名のもとに断罪します。これでは公平な政治は望めませんし、宗教そのものが墮落して滅んでしまいます。一宗教だけが権力を持てば、ライバルとなる他の宗教を弾圧するでしょうから、信仰の自由も守れません。ですから、政治と宗教は分離しなければいけないのです。確かに、本来の宗教は人々に正しい生き方を教える神聖なものだと言えるでしょう。宗教によって正しい理想へ向かう歩み方は違っても、最終地点である真理はきつと共通するものではないかと思えます。ということとは、人々が共に作る国家の進むべき道も、宗教が正しく照らし出してくれるかもしれません。しかし、人々の生き方を決めるのは宗教的な道徳だけではありません。人間の行動は様々な欲望を原理にしており、宗教で縛りつけることは不可能です。
--

